



絆

きずな

ご自由にお持ちください



第4号 特集

- 消化器内科を新設
- 家庭でできる冬に多い感染症の予防
- 小樽後志地域医療連携システム
「ID-Link」

新市立病院イメージ



新病院の概要、工事の進捗状況などは、病院局ホームページで随時お伝えします。

**平成26年11月開院に向け
新病院の工事が始まりました。**



市立小樽病院 6階
オープン病棟登録医
潮見台内科 院長
ごやながわ よしのり
小梁川 義則先生

病院の統合により診療科が増えることは、オープン病棟入院中の患者さんの容態の変化にも、迅速な対応が望めるため、患者さんにも開業医にも多大なメリットがあります。オープン病棟を国内で初めて開設した公立病院として、今後も国の目指す地域完結型医療を確立し、地域のリーディングホスピタルとなることを大いに期待しています。

新市立病院
工事開始に
当たって一言

若松1丁目町会 会長
わがつま しげお
我妻 栄夫さん



高齢者の多い小樽で、交通の便の良い場所に二つの病院が統合することは、とても安心できることだと思います。市立小樽病院に健診で行ったときに、ボランティアの方が親切に案内してくれたことがとても印象的でした。今後も市内の病院と協力して、さらに市民の利用しやすい病院にしてほしいと願います。

消化器内科を新設

●平成24年8月
●市立小樽病院

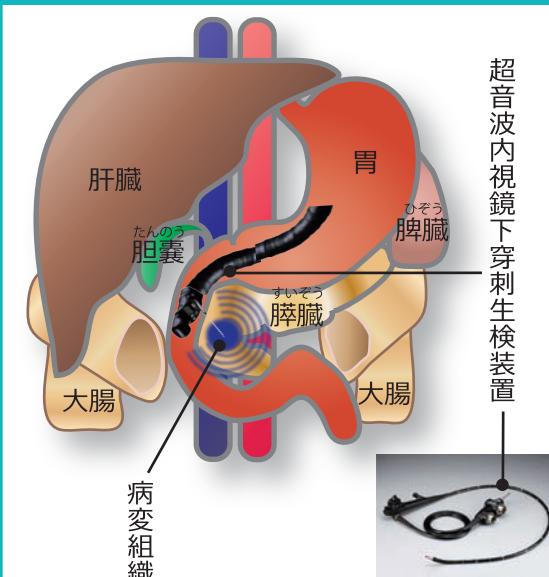
平成24年8月、市立小樽病院に「消化器内科」を新設しました。消化器内科とは、腹部（胃・大腸などの消化管、肝臓、胆嚢、脾臓など）に関わる病気を専門的に診療する診療科で、消化管出血（吐血・下血）や胆石・胆嚢炎などの救急診療、逆流性食道炎や慢性肝炎などの慢性疾患、腫瘍性疾患（がんなどの悪性腫瘍）の診療を行います。

近年、悪性腫瘍が増加しています。消化器内科の診療でも大きな比重を占めているのが、がんの診断と治療です。外科や放射線科、緩和医療チームと連携しながら診療を行っています。

消化器疾患の診断には、胃・大腸内視鏡検査やバリウム検査、超音波、CT、MRI、血管造影など、さまざまな検査を行います。中でも、特に重要な役割を果たしているのが内視鏡検査です。多くの方が内視鏡検査に不安を抱いていると思います。当院では鼻から挿入する経鼻内視鏡や通常のスコープよりも細く柔らかい大腸スコープを導入し患者さんの負担を少なくするよう努めています。また麻酔下での内視鏡検査も行っています。

24年度中には、更に正確な診断を行うため、超音波内視鏡下穿刺生検装置「EUS-FNA」を導入予定です。

超音波内視鏡下穿刺生検装置「EUS-FNA」



胃や食道、大腸などは、内視鏡により直接観察して組織を採取し（生検）、良・悪性を診断しています（病理診断）。脾臓など体の奥にある臓器は、内視鏡での観察や生検による病理診断は非常に困難です。そのため良・悪性的病理診断がつかないまま、治療を行わなければならないことがあります。

超音波内視鏡下穿刺生検装置（EUS-FNA）では、内視鏡の先端に付いた超音波装置で、体の奥にある臓器を観察しながら、針を病変組織に刺し、生検を行うことができます。これにより、手術や抗がん剤治療前の正確な病理診断が可能となります。

当院には病理医が常勤しており、さらに柔軟で緊密な連携のもと、診断を行えるようになります。

消化器内科	院長代行	近藤 吉宏	診療日	午前の診療受付	専門外来	●肝臓
	医療部長	後藤 啓		月～金曜日		診療受付
	医長	安達 雄哉		8時～11時30分		火曜日
	医長	矢花 崇		午後の診療受付		8時～11時
	医員	三橋 慧		火曜日		13時～15時
	医員	内藤 崇史				



このような症状のある方は消化器内科の受診を

- ・胃痛、みぞおちから胸にかけてが痛い
- ・胸やけがする

- ・下痢、便秘を繰り返す
- ・緊張するとお腹が痛い

- ・身体がだるい
- ・顔や目が黄色くなった
- ・お酒が飲めなくなつた
- ・お腹が痛い、張って苦しい
- ・背中、肩にも痛みがある

- ・人間ドック、がん検診、内視鏡検査、便潜血検査で異常を指摘された

- ・食欲がない
- ・体重が減った

- ・食べたものがつかえる
- ・胃がムカムカする
- ・食べたものを吐く
- ・血を吐く

- ・真っ赤な便、血が混じった便、赤黒い便、タールのような黒い便、粘液が混じった便、ウサギのふんのような便が出る

家庭でできる

冬に多い感染症の予防

インフルエンザ

ワクチンの接種
完全な予防ではないが重症化、合併症予防に効果がある。接種後約2週間で抗体ができ、5～8ヶ月間効果が持続。

湿度対策
室内の湿度は50%以上が好ましい。
小まめに換気する。
うがいで口腔を洗浄し、潤いを保つ。

潜伏期間は1～4日間
38℃以上の発熱、悪寒、頭痛、呼吸器症状、筋肉痛、全身けん怠感、下痢など。

手洗いの励行
多数の人が触れる場所に触った手で鼻や口の粘膜に触れない。
しぶきなどが手に付いたらすぐ洗う。

マスクの着用
せきエチケットを守る(せきやくしゃみが出るときは、マスクをする)
着用するときは鼻と顎までしっかり覆う。

ノロウイルス

調理と配膳時に注意
調理の前後に手洗い。
貝類の調理は十分に加熱(85℃、1分以上)。貝類を調理したまな板、包丁は消毒。

【消毒液の作り方】
①500mLのペットボトルに水を半分入れる。
②家庭用漂白剤をキャップ2杯(10mL)入れる。
③水を入れ500mLにする。

潜伏期間は1～2日間
下痢、おう吐の他、軽い風邪のような症状や無症状の場合もある。

おう吐、下痢便の処理
手袋、マスク、ガウンまたはエプロン(使い捨てが良い)を着用する。
①処理をする人以外を遠ざけ窓を開け換気。
②吐物、便などを拭き取る。(外側から内側へ)
③消毒液で拭き取る。
④使用した物品を密閉し二重にして廃棄する。
⑤処理後には、しっかりと手洗いを行う。

アドバイザー



小樽市立脳・循環器・こころの医療センター
感染管理認定看護師 村上 圭子師長



現在後志管内には、私の他に2名(市立小樽病院、JA 健知安厚生病院)の感染管理認定看護師がいます。感染管理の知識を広めるため、所属の病院だけで

はなく、さまざまな場所で講演を行っています。

今年6月に小樽市医師会主催で開催された医療関係者向けの講演会には、342名の方が聴講に訪れ、感染管理への関心の高さがうかがえました。今後も感染管理に積極的に取り組み、講演会の要望も可能な限り対応していきたいと考えています。



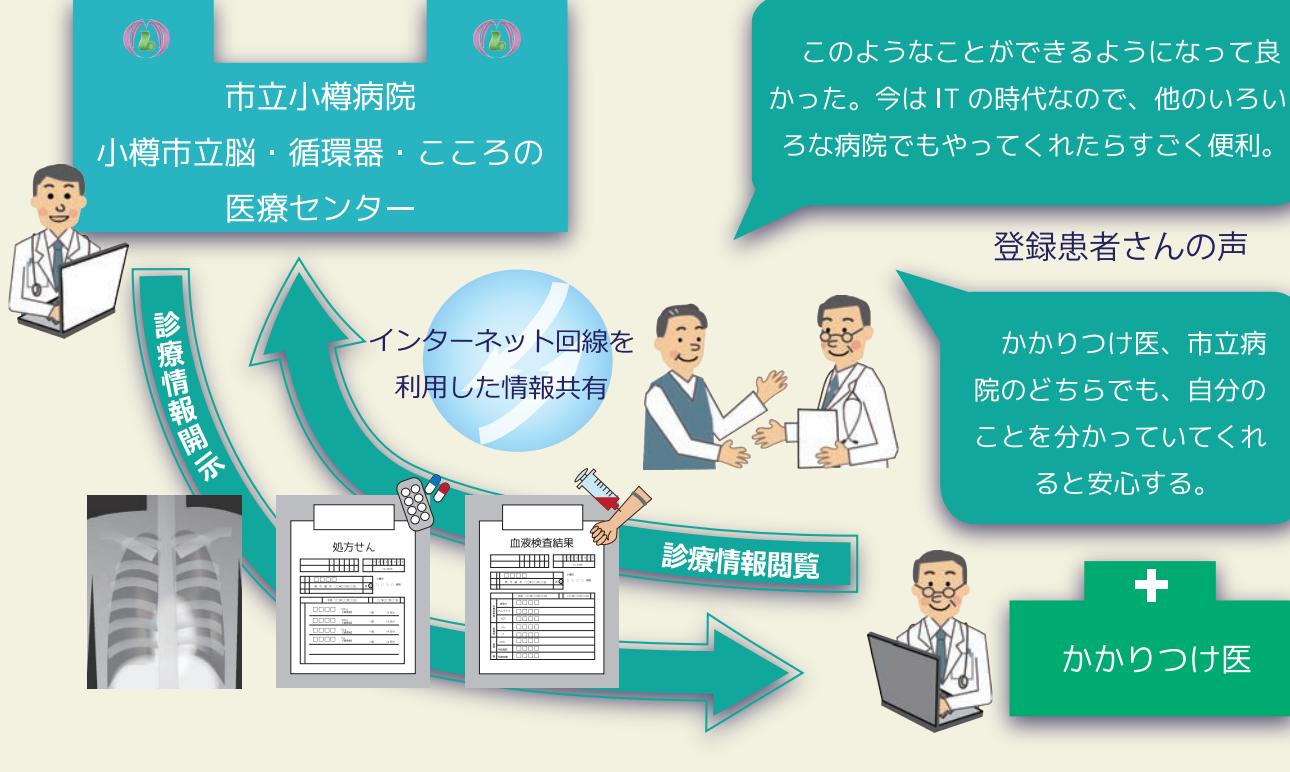
写真提供：小樽市医師会

かかりつけ医と市立病院をつなぐ 小樽後志 地域医療連携システム 「ID-Link」 アイディーリンク

【小樽後志地域医療連携システム「ID-Link」とは】

かかりつけ医と小樽の両市立病院が保有している患者さんの診療情報の共有を行える地域医療連携のシステムです。医療機関が、互いの専門性や特長を生かして地域住民の健康管理を行うことができるため重要性を増し、注目されています。

「ID-Link」を利用するには、患者さんの同意とかかりつけ医の登録が必要となります。平成24年10月31日現在、8医療機関と連携しており、登録患者数は1050名です。皆さんもかかりつけ医と相談の上、ご登録ください。



市立病院新築資金基金について

平成24年10月31日現在、87件の寄付があり、基金現在高は6646万6384円となっています。基金の使途については、院内環境を向上させる整備等に充てる予定です。

引き続き、皆さんからの温かいご支援をお待ち
しています。

問い合わせ先：病院局 経営管理部 管理課 TEL 0134(25)1211

市立小樽病院

小樽市若松1丁目2番1号 TEL 0134(25)1211

小樽市立脳・循環器・こころの医療センター

小樽市長橋3丁目11番1号 TEL 0134(33)4151

ホームページ

小樽市病院局

検索



発行 小樽市病院局 編集 両院合同広報誌・HP委員会

【事務局】経営管理部 管理課 TEL 0134(25)1211 内線304

